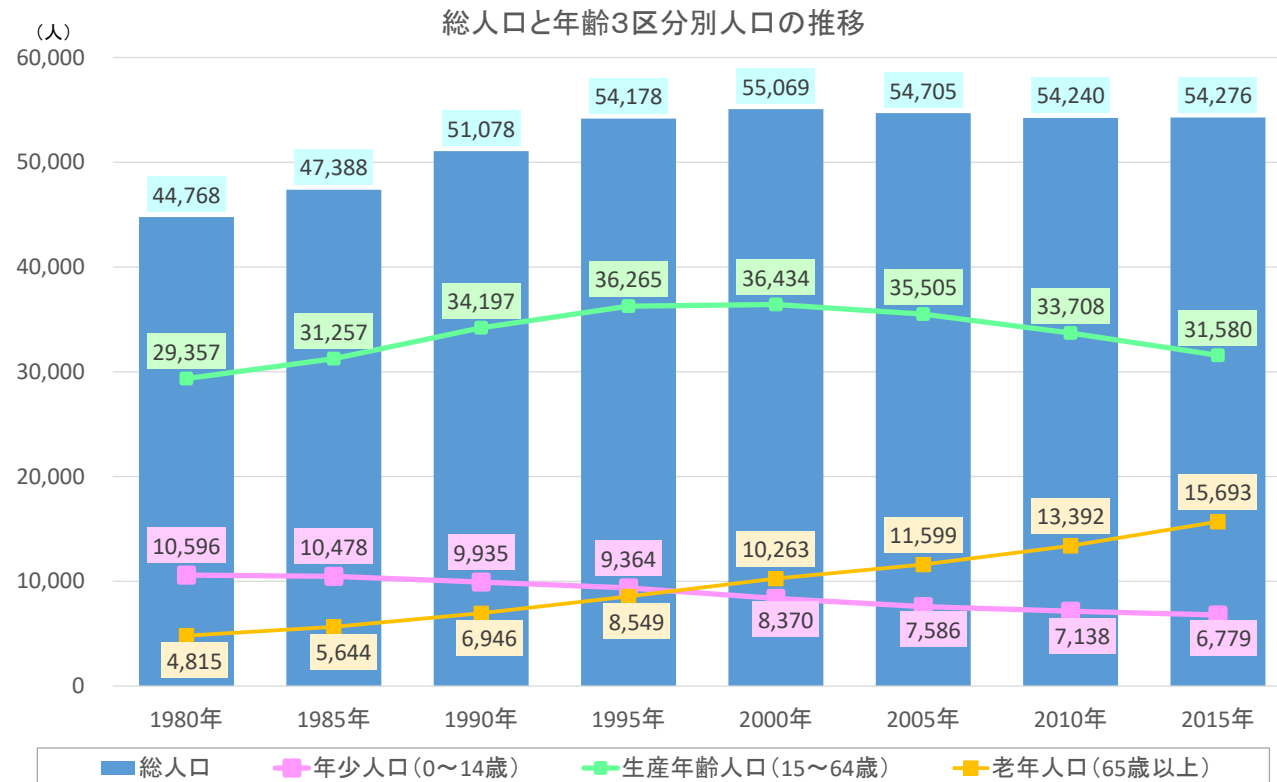


## 第2期那珂市まち・ひと・しごと創生総合戦略（概要）（人口ビジョン）

### 那珂市の人口の動向



#### ◆ 総人口が微減傾向、生産年齢人口が減少、少子化と高齢化が同時進行

- ・総人口は2000年をピークに微減傾向（2010→2015では微増）
- ・生産年齢人口は2000年をピークに減少、年少人口は一貫して減少、老年人口は一貫して増加

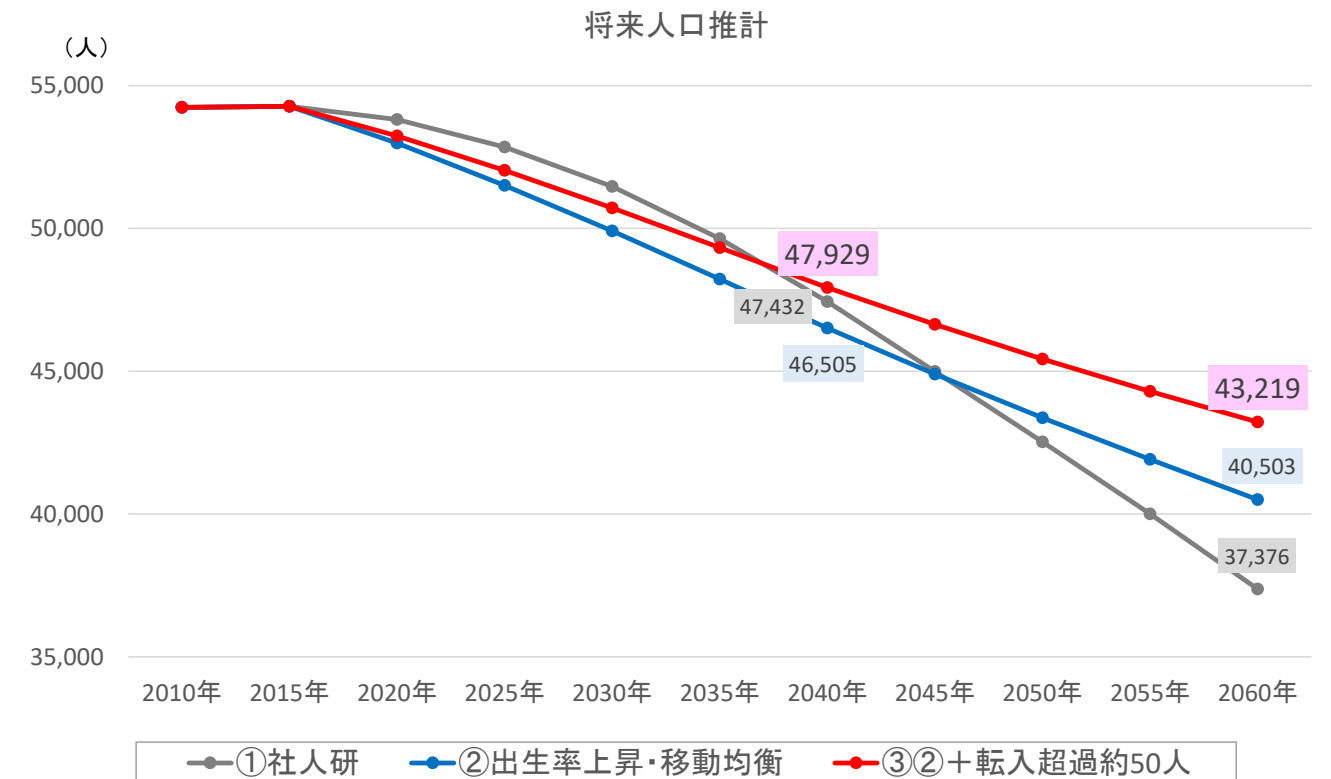
#### ◆ 死亡数の増加、出生数の減少による自然減少

- ・2003年、死亡数が出生数を上回り、直近10年では年平均200人程度の自然減少
- ・合計特殊出生率が伸び悩み、出生数の減少傾向が続く

#### ◆ 転入超過による社会増加が続くが、進学・就職により若者が流出

- ・直近10年では年平均50人程度の社会増加であるが、15から24歳の若者の転出超過が大きい
- ・一方で、子育て世帯（30から39歳、0から9歳）の転入超過傾向がみられる

### 将来人口推計



（3つの仮定による将来人口推計）

#### ① 国立社会保障・人口問題研究所（社人研）

- ・社人研が2018年に行った将来人口推計
- ・2040年の人口は47,432人、2060年の人口は37,376人

#### ② 合計特殊出生率上昇+移動均衡

- ・合計特殊出生率が2040年までに段階的に2.07に上昇、かつ社会移動が均衡（±0）
- ・2040年の人口は46,505人、2060年の人口は40,503人

#### ③ ②の条件+転入超過年間50人

- ・若者の転出抑制、アクティブシニア層および子育て世代層の移住により年間50人程度の社会増
- ・2040年の人口は47,929人、2060年の人口は43,219人

### 目指すべき将来の方向

- ① 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を早期にかなえる（出生数の確保）
- ② 住みやすさの向上により転入を促進する（転入超過の維持）
- ③ 若い世代が留まる、帰ってくる環境を整える（若年層の転出抑制と移住促進）

### 将来展望人口

人口ビジョンでは、合計特殊出生率の改善と転入超過の継続により、  
**2040年の人口：48,000人、2060年の人口：43,000人**  
 を展望します！

第 2 期那珂市まち・ひと・しごと創生総合戦略（概要）

総合戦略の目的

<div>◆ 人口減少社会への対応、地域経済縮小への対応</div> <div>・転入超過が継続するものの、出生数の減少および死亡数の増加により総人口は減少傾向</div> <div>・若者の流出および高齢化による生産年齢人口の減少による地域経済縮小の懸念</div> <div>◆ 「まち・ひと・しごと」の創生</div> <div>・「ひと」が「しごと」をつくり、「しごと」が「ひと」を呼び込む好循環をつくり、それを支える「まち」をつくる</div>
<div>第 1 期総合戦略の取組</div> <div>◆ 「しごとづくり」「ひとの流れづくり」「結婚・出産・子育て支援」「まちづくり」の推進</div> <div>・「しごとづくり」：企業支援コーディネータによる創業支援・企業支援の強化、6 次産業化の推進</div> <div>・「ひとの流れづくり」：移住支援体制の構築、シティープロモーション、子育て世帯への住宅資金助成</div> <div>・「結婚・出産・子育て支援」：保育料軽減枠・小児マル福の拡大、保育所・学童保育所の受入枠拡大、小中一貫教育の推進</div> <div>・「まちづくり」：生活基盤の整備、区域指定制度導入、静峰ふるさと公園の整備、デマンド交通の拡充</div> <div>◆ 「いい那珂暮らし」の定着</div> <div>・「住みやすさ」の向上を目指す「いい那珂暮らし」の取り組みが定着、転入超過が継続するなど一定の成果</div> <div>◆ 依然として残る課題</div> <div>・若者の流出、出生数の伸び悩み、農業者の減少による遊休農地増加への懸念などが解消されない・・・</div>
<div>➡課題に対してより踏み込んだ施策の実践が必要</div>






第 2 期総合戦略の方針

<div>◆ より踏み込んだ施策の実践のため、施策を実施する目的と手段を明確化し、成果目標（KPI）は事業実施の効果を把握、検証しやすい指標を設定</div> <div>◆ 計画的な実行と効果検証、施策の見直しの継続により、那珂市の魅力を高め、那珂市に愛着を感じる市民、那珂市に訪れる人、移り住む人の増加を図る</div>
---

第 2 期総合戦略の期間

<div>2020 年度から 2024 年度(5 年間)</div> <div>※施策の効果検証や社会情勢の変化等により随時改定</div>
--

施策体系

プロジェクト	施策	数値目標
戦略 1 安定した雇用の創出戦略		
「農業で稼ぐ」 いい那珂プロジェクト    	農業の収益力向上	・地産地消の推進 ・6次産業化の推進 ・販路拡大の推進
	担い手の育成支援	・新規就農への支援
「ここで働きたい」 いい那珂プロジェクト    	創業支援・企業支援の強化	・よろず相談による創業・企業支援
	地元就業の促進	・インターンシップの推進 ・各種就職相談会の開催 ・テレワークの推進
プロジェクトによって創出された就業者数 累計100人		
戦略 2 那珂市への人口還流戦略		
「来て見て感じて」 いい那珂暮らしプロジェクト  	移住定住の促進	・移住・定住に向けた支援 ・いい那珂暮らしの情報発信強化 ・地域おこし協力隊の導入
	交流人口・関係人口の創出	・サテライトオフィスの導入 ・いい那珂暮らし体験の実施 ・いい那珂暮らし応援団の運営
社会動態による年間増加者数 各年50人		
戦略 3 結婚・出産・子育て応援戦略		
みんなの笑顔を育てよう プロジェクト     	結婚の促進	・結婚支援の促進 ・ライフデザインの形成支援
	安心できる妊娠・出産・子育て環境の提供	・子育て世帯の経済的負担の軽減 ・子育て世帯への包括支援 ・不妊治療への支援
	時代にあった教育環境の整備	・保幼小中連携の推進 ・英語教育の充実 ・ICT教育の充実 ・特色ある給食の推進
	家庭と仕事の両立支援	・低年齢児保育の受入枠の拡大 ・放課後児童クラブの支援 ・病児・病後児保育の支援
年間出生者数 各年400人		
戦略 4 時代にあった地域の創造戦略		
「住まい☆すまいる」 いい那珂づくりプロジェクト      	にぎわいづくりの推進	・市民活動への支援 ・静峰ふるさと公園の魅力向上 ・駅周辺のにぎわいづくり ・里山を活用したにぎわいづくり ・自転車によるにぎわいづくりと健康づくり
	住みよいまちづくりの推進	・生活基盤の整備推進 ・空き家の利活用促進 ・公共交通の改善と利用促進
住みやすいと思う市民の割合 各年85.0%		

※プロジェクト名の下部のマークは、SDGs（持続可能な開発目標）の 17 の目標のうちから、各プロジェクトに関連するものを記載したものです。

「SDGs（持続可能な開発目標）」とは、全ての関係者の役割を重視し、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指して、経済・社会・環境を巡る広範な課題に統合的に取り組むもので、「すべての人に健康と福祉を」、「働きがいも、経済成長も」、「住み続けられるまちづくりを」などの 17 の目標と、これを達成するための 169 のターゲットを掲げています。

第 2 期那珂市まち・ひと・しごと創生総合戦略（具体的事業・重要業績評価指標（KPI）の概要）

戦略	基本的方向	具体的な施策	具体的な事業	区分	主な事業の概要	重要業績評価指標（KPI）	現状値 （策定時）			目標値 （2020-2024年）		
1	「農業で稼ぐ」 いい那珂 プロジェクト	①農業の収益力向上	ア) 地産地消の推進	拡充	・ 園芸農業の収益力向上を図るため、セミナーや実技講習などを実施 ・ 農業生産者の安定収入を確保するため、学校給食への納入量拡大を促進	1 事業実施による売上高	年度	33,000 万円	2018年	最終年度35,000 万円		
			イ) 6次産業化の推進	拡充	・ 農産品の付加価値向上を図るため、「売れる商品」の開発を支援							
			ウ) 販路拡大の推進	拡充	・ 販路拡大および収益性向上を図るため、消費者に直接届ける仕組みの構築							
	「ここで働きたい」 いい那珂 プロジェクト	②担い手の育成支援	ア) 新規就農への支援	拡充	・ 経営改善を図る認定農業者を支援 ・ 市外の新規就農希望者受入れと定着促進のため、市内・市民との連携・協働体制確立	2 新規就農・認定農業者数	年度	89 人	2018年	最終年度100 人		
		①創業支援・企業支援の 強化	ア) よろず相談による創業・企業支援	拡充	・ 創業を希望する市民を支援するため、創業支援施設を開設 ・ 市内雇用の維持・拡大を図るため、企業コーディネータによる経営支援や事業承継を支援	3 事業実施による創業者・新規雇用者数	累計	0 人	新規	70 人		
			ア) インターンシップの推進	新規	・ 市内企業への関心を高めるため、大学生等によるインターンシップや取材等の機会を提供							
			イ) 各種就職相談会の開催	拡充	・ 市内企業へ就職する若者を増やすため、就職相談会、就域説明会を実施							
		②地元就業の促進	ウ) テレワークの推進	新規	・ コワーキングスペースを運営し、多様な働き方を支援 ・ 女性や高齢者、障がい者等の活躍を促進するため、テレワークに取り組む人材を育成	4 事業実施によるテレワーク新規実践者数	累計	0 人	新規	20 人		
2	「来て見て感じて」 いい那珂暮らし プロジェクト	①移住定住の促進	ア) 移住・定住に向けた支援	継続	・ 那珂市への移住希望者を増やすため、移住セミナーにおける情報発信・相談体制を充実 ・ 那珂市の魅力を実感してもらうため、「那珂市紹介ツアー」を実施 ・ 子育て世帯の転入促進や転出抑制のため、住宅取得資金に対して助成金を支給	5 各種移住支援制度を利用した転入者数	各年	208 人	2018年	250 人		
			イ) いい那珂暮らしの情報発信強化	継続	・ 市の知名度向上と関係人口増加のため、「いい那珂暮らし」のシティープロモーションを強化							
			ウ) 地域おこし協力隊の導入	新規	・ 地域おこし協力隊員の定住促進、市民・行政との協働による地場産業活性化やまちの賑わいを創出							
		②交流人口・関係人口の 創出	ア) サテライトオフィスの導入	拡充	・ 多様な主体の利用を想定したオフィス（創業支援施設、コワーキングスペース等を併設した施設）を運営 ・ サテライトオフィスの誘致により、地域課題を解決する仕事を創出	6 事業実施による関係人口創出数	各年	78 人	2018年	80 人		
			イ) いい那珂暮らし体験の実施	継続	・ 「那珂市での生活」を具体的にイメージできるよう、移住体験ツアー、お試し居住を実施							
			いい那珂暮らし応援団の運営		・ いい那珂暮らし応援団のイベント等による交流を促進							
3	みんなの笑顔を 育てよう プロジェクト	①結婚の促進	ア) 結婚支援の推進	拡充	・ いばらき出会いサポートセンター登録費用の助成、ふれあい（婚活）パーティーを開催	7 いばらき出会いサポートセンター登録助成 制度利用者数	各年	0 人	新規	20 人		
			イ) ライフデザインの形成支援	継続	・ 中学生が将来の仕事や結婚、出産、子育てなどについて考える「ライフデザインセミナー」を実施	8 ライフデザインを考えるきっかけとなった生徒の 割合	各年	76 %	2018年	80 %		
		②安心できる妊娠・出産・ 子育て環境の提供	ア) 子育て世帯の経済的負担の軽減	継続	・ 保育料無償化の対象外である0 から2 歳児を持つ世帯への費用負担軽減を検討	9 妊娠・出産・子育てに関する経済的支援が 充実していると感じる人の割合	各年	0 %	新規	50 %		
			イ) 子育て世帯への包括支援 （子育て支援、子どもの健康）	拡充	・ 子育て世帯を身近な地域で親身に支える「子育て世代包括支援センター」を設置 ・ 国・県・那珂市の子育て支援を十分活用できるよう、子育て情報のプロモーション推進 ・ ふれあいの場であり、子育ての不安を軽減する「地域子育て支援センター」を複数拠点で運営 ・ 乳児健康相談にて、保護者が子どもの成長・発達の見通しができるよう支援 ・ 予防接種について、市が独自に助成するワクチンの種類や助成金額を検討	10 子育て世代包括支援センター相談件数	各年	0 件	新規	1,050 件		
					子どもを安心して預けられる人や場所があると 感じる人の割合	11	各年	0 %	新規	50 %		
					母子の健康に関する支援が充実していると 感じる人の割合	12	各年	0 %	新規	50 %		
			ウ) 不妊治療への支援	継続	・ 不妊治療について、助成内容の効果を検証しながら、制度の見直しを検討	13 補助金交付者が出産した人数	累計	6 人	2018年	45 人		
			③時代にあった教育環境の 整備	ア) 保幼小中連携の推進	新規	・ 保幼小中連絡協議会を軸とした幼児期から中学校卒業までの一貫性ある教育を推進	14 小学校及び保育所・幼稚園の交流活動数	各年	36 回	新規	50 回	
		イ) 英語教育の充実		継続	・ 子どもたちの国際感覚醸成と英語力向上を図るため、外国語活動を小学校低学年に拡大 ・ 幼稚園、小・中学校に外国人の外国語指導助手（ＡＬＴ）を配置	15 英語検定合格者数の割合	年度	31.7 %	2018年	最終年度60 %		
		ウ) ＩＣＴ教育の充実		拡充	・ 「プログラミング的思考」を身につけるため、教員のICT知識・技術向上と効果的な授業を実施	16 コンピュータ1 台あたりの児童生徒数	年度	7.5 人/台	2018年	最終年度 1 人/台		
		エ) 特色ある給食の推進		継続	・ 安全安心な食事で健康な児童生徒を育成、地域の食材を知ること地域への愛着心を向上 ・ 学校給食における地場産食材の利用率向上	17 地場産食材の利用率	年度	41.1 %	2018年	最終年度50 %		
		④家庭と仕事の両立支援	ア) 低年齢児保育の受入枠の拡大	拡充	・ 待機児童解消のため、低年齢児（0～2歳）の受入枠を拡大 ・ 保育士の確保と保育士が働きやすい環境整備を支援	18 待機児童人数	各年	27 人	2018年	0 人		
			イ) 放課後児童クラブの支援	継続	・ 地域ごとの児童数の変化やニーズ等を踏まえた施設等の環境を改善							
			ウ) 病児・病後児保育の支援	継続	・ 病児・病後児保育を実施する事業者に対して補助金を交付							
		4	「住まい☆すまいる」 いい那珂づくり プロジェクト	①にぎわいづくりの推進	ア) 市民活動への支援	継続	・ まちづくり人材育成や市民活動促進のため、まちづくりリーダー養成講座や協まち・カフェを開催	19 支援対象事業への参加者数	各年	3,543 人	2018年	3,600 人
					イ) 静峰ふるさと公園の魅力向上	拡充	・ 市内外の多世代が楽しむ静峰ふるさと公園づくりとして、定期イベント開催、民間イベントを誘致	20 観光入込客数	年度	23.1 万人	2018年	最終年度30.0 万人
					ウ) 駅周辺のにぎわいづくり	継続	・ 若者や子育て世代が集い楽しめる市街地づくり、宮の池公園のリニューアルやイベント開催を支援					
					エ) 里山を活用したにぎわいづくり	新規	・ 那珂川、茨城県植物園などの自然資源を活用し、アウトドアなどによる賑わいづくりを推進					
オ) 自転車によるにぎわいづくりと健康づくり	新規				・ 比較的平坦な土地にのどかな田園風景の広がる地勢を活かしたサイクルツーリズムを推進							
②住みよいまちづくりの 推進	ア) 生活基盤の整備推進			拡充	・ 市街地の適正な誘導を図るため、立地適正化計画を策定 ・ 市の活性化、交通網の形成、市街地整備等のため、都市計画道路を計画的に整備 ・ 市街地の活性化のため、地区住民と協働のまちづくり事業を推進 ・ 市街地の冠水被害軽減、住環境と安全安心、魅力度向上のため道路排水を整備	21 市街化区域の宅地率	年度	62.5 %	2018年	最終年度65.5 %		
	イ) 空き家の利活用促進			継続	・ 空き家有効活用を図るため、空き家バンク制度の周知、リフォーム・家財処分経費を補助	22 空き家バンク成約件数	累計	0 件	新規	10 件		
	ウ) 公共交通の改善と利用促進			拡充	・ 乗合ルートの最適化等、利用者の利便性向上のため、運行配車システムを導入	23 ひまわりタクシー利用者数（延人数）	年度	15,062 人	2018年	最終年度24,000 人		